

おおくら 議会だより



予防ばっちい、コロナに負けないぞ！
(大蔵小運動会)

風水にふれる里
第 125 号
2020.秋

もくじ

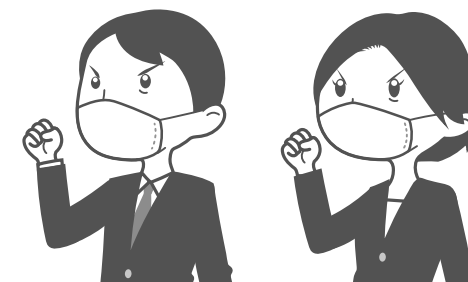
巻頭特集	2～4P
9月定例会	5～6P
一般質問	7～14P
議会から	15P
あれからどうなった？	16P

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行
発行責任者／議長 鈴木君徳
印刷／共栄印刷株式会社

新型コロナウイルスへの村独自の対策について

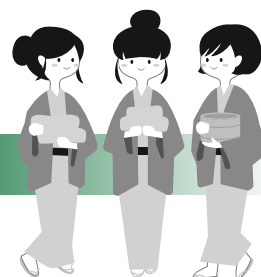


アンケートを検証



3 県民泊まって応援キャンペーン事業について

県民が肘折温泉を利用の際に1千円キャッシュバック事業を知らない方が4割もいた。是非使って肘折温泉を利用してほしい。



4 肘折に行こう村民応援事業について

- 村民が利用する際に5千円の宿泊補助事業、利用しない方が約7割でした。(知らなかった方が3割)

旅館のサービスがよく、久しぶりに泊まれて良かった。

多くの方ができる限り支援応援したいと思っていた。

クーポンや商品券の方が使いやすいのでは？

今回の支援策として、1世帯2万円の商品券配布を検討している。

7月31日まで500名の期間限定だったが利用者は？

219名44%の利用

村民限定では見込みがないので範囲を広げて

第2弾としては最上郡まで広げるか検討している。

若い世代は他所へ、年配者には良い

若い世代への魅力発信が必要であり、キャッチフレーズも一役かうのでは。

5 経営維持資金について

- 経営維持資金について知らない方が1割いた。
- 知っている方は村独自である事を全員知っていた。
- 対象は全員手続きを終了している。



国と比べて、手続きも簡単で良かった。

もう少し多いと良かった。

更なる支援を求める。

6 村独自の支援について

激しい対応にあたった医療・介護従事者への支援

翠明荘への支援は何をしたか

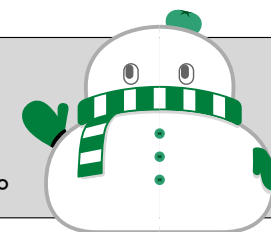
9月定例会により補助金が認定され、今後支援していく予定。

診療所関係への支援は

村職員のため特になし



アンケートにご協力いただきました皆様、貴重なご意見をありがとうございました。
議会として今後の対応等に生かすべく検証してまいります。



村民からの意見

議会の見解

1 特別給付金について

- 特別給付金については全員知っていた。
- 申請手続きは…自分、家族が行い、スムーズに給付された。
- 使い道は…ほとんどの方が生活費に充当、貯蓄もあり。

現金上乗せ1万円は概ね好評な意見が多かった。

申請から入金までスピーディーでよかった。

村議員は受け取ったか、寄付又は受け取り拒否は
受け取り拒否はせず全員受け取りました。寄付行為は公職選挙法違反になるのでしていません。

湯治への使用など地域経済への一定の効果があつた。

商品券でなく現金で良かった。

現金は幅広く使用できて良かったが、地域活性化になったのか？



2 マスク配布について

- 対象者限定のため2割の方が知らなかった。
- 受け取った方は概ね喜んで頂きました。素早い対応が良かった。

品薄の時期であり助かった。

国のマスク配布より早かったのが良かった。

対象者以外にも配布して欲しかった。

枚数をもっと多く欲しかった。

消毒液も欲しかった。

マスクを含め、備蓄を日頃から進めていくことの必要性を実感し、議会として取り組みたい。



各業種の生の声

農 業	
1、トマトハウス農家（浸水被害無し農家） コロナ禍により当初作業時から懸念はされていたが、トマトの出荷が始まり異常気象による高温状態が続き、前年と比べ収穫量が落ちている状態である。また出荷最盛期に於いては例年ですと価格も上昇しているが、今年はコロナの影響で需要が少ないと思われ、例年の半分の収入になるのではと懸念している。	2、ピーマン・シシトウ農家 生育に関してはトマトと同様高温が続き多少の影響があるが、主食材料と違い、食として必ず無くてはならない物ではなく、コロナ禍による消費行動の低下で収入が減るのでは？
3、ニラ農家 ●例年なみに推移している。 ●孫を村営バスで通園させており、一般の方々と混乗乗車のため、感染が心配で、自家用車で送迎を行ったため、ニラの出荷作業に影響を受けた。	4、米農家 新聞紙上では、雪若丸の単価が例年と比べ1,000円減の報道がなされ、まだ刈り取り期に入っていないが他の品種も同等の価格になると思われ、収入減を懸念している。
肘折温泉 旅館・商店 ●助成金の500万円の使い道（旅館組合、商店組合と一緒に集客のため企画しているとのこと） ※第1弾として、山形県民を対象に宿泊、買い物のクーポンを付けたダイレクトメール1000通を発送した。第2弾として、県外在住者へも同様のクーポン券付きダイレクトメールを発送予定。これからの広告宣伝費として使用 ※雑誌やテレビなど、各種メディアへの広告宣伝費として使用 ※温泉街での集客を目的としイベントの企画費として使用	村内各商店 常連客の利用がほとんどなので特に影響はなかった。 村内建設会社 外作業が主なので、特に影響はなかった。



7 議会の対応はどうか

コロナ	避難所でのコロナ対策はどうか 備品等で密にならない工夫をするよう要請している。	議会としてのコロナの対応は 9月定例会で支援策を議決
	コロナ感染者への対応は 被用者(パート、アルバイト)で国保加入の方へ傷病手当金が適用される。	村内住民のための更なる支援は 秋冬キャンペーンと商品券配布を議決(9月定例会)
	広報の防災無線の情報の発信、感染者・退院者の情報 個人情報で公表できないが、在り方について再考の必要を考えている。	議員の報酬の返還はないのか 視察等の取りやめなどで、経費削減を図っている。
	その他 葉山登山道(肘折口)の刈払いはやめた？ 毎年7月上旬に整備し今年は7月5日に実施済を確認。	現金支給も良いが商品券でも良いのでは 1世帯2万円の商品券配布を議決
	資料館があれば 資料館は出来ないがまつぼっくりで資料展示等を進めている。	午前中の傍聴を早めて 一般質問だけの議会ではなく、その他の協議もあり、早めるのは難しい。
		議会だよりをもっと早く 早くできるように頑張ります。

その他のご意見は、議会として引き続き協議していきます。

★令和元年度決算を可決認定 ★豪雨災害復旧急げ ★新型コロナウイルス対応強化

9月
定例会

- ・町村の境界変更
「赤松・烏川基盤整備事業に伴う舟形町との境界整備」
- ・村職員の定年等に関する条例の一部改正
「医師及び歯科医師の定年を65歳に改正」
- ・手数料条例の一部改正
「個人番号の通知カードが廃止されたことに伴うもの」
- ・肘折浄水場膜ろ過設備設置工事の契約変更
「工事内容変更増額のため」
- ・令和元年度決算
「決算審査を通して可決」
- ・一般会計の他8特別会計



令和元年度決算審査を中心とする9月定例会が、1日から4日の4日間の会期で行われ、令和元年度の一般会計・特別会計（8会計）の決算審査の他、令和2年度補正予算（専決処分6件を含む）、条例の改正等を審議・可決。議案審議に先立ち7名の一般質問が行われ、主に7月末の豪雨災害に関し、執行部と活発な議論を交えました。

意見書の提出

「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の確保を求める」
◎意見書の内容

- ・令和2年度補正予算
「主に新型コロナウイルスに対応した内容」
- ・一般会計、5特別会計（専決処分）の審査
「主に新型コロナウイルスに対応した内容」
- ・一般会計、5特別会計の審査
「主に7月豪雨災害に対応した内容」

◎提出先

衆参両院議長
内閣総理大臣
財務大臣の他、関係所管大臣



9月定例会

決算審査特別委員会開催

一般会計

歳入

問 村税の不納欠損処理の見解（不納欠損とは、滞納した徴収金が徴収できなくなった場合、その金額を消滅させる、地方税法の定め）

答 5年で消滅の法があるが、村では財産の整理や預貯金の差し押さえ等でできるだけの手段で支払いを促している。今期は170万円余りの処理となった。

問 ふるさと納税の実績は？

答 元年度6617名、1億7千万円程。昨年の130周年記念に合わせた130万円の納税者が1名、他100万円の納税が2名、2万から3万円の納税が大多数。

歳出

問 「水力発電事業」大雨の影響と今後の予定は？

答 事業中の施設に被害はないが、柳瀬発電所を通しての通電計画のため、豪雨災害での地滑りの影響で目途が立たない状況。

問 「総合行政システム」内訳と契約の状況は？

答 財政・税・戸籍等役場の業務全般に関わる重要なシステム。システム開発権の関係で使用料・保守料等は現在まで一社と随意契約で行っている。

問 「地域活性化推進事業」成果は？

答 塩公民館解体新築、烏川公民館屋根葺き替え、作の巻トイレ改修等の事業を行った。

問 「高齢者運転免許返納支援事業」昨年より減っているか？

答 発足から時間経過したこともあり周知不足の感があった。今後お知らせ等周知を図りたい。

問 「資格取得による雇用促進事業補助」実績は？

答 17件の申し込みがあった。主に大型特殊免許の取得。ドローンの操作資格も。

問 「環境保全型農業直接支払交付金」実績は？

答 化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を支援するもの。主にそば栽培で、10a当たり3000円。10haの事業実績。

問 湯の台スキー場利用者の状況は？

答 マスターズやスポーツ少年団の利用が主で、例年同様の利用者数を記録。

問 村のPR動画完成しているはずだが？

答 村のホームページで常時閲覧できる。本編ダイジェスト版と四ヶ村の棚田編、肘折温泉編があり、村民への周知を図りたい。

問 「特産品開発補助」実績は？

答 雪を詰めた発泡スチロールのおおくらくんを開発したが、今年はコロナウイルスの影響と少雪で大きく展開できなかった。

特別会計

国民健康保険

問 「高額療養費」大きな支出となっているが内訳は？

答 一か月の療養費が一定の額を超えた場合、上回った額が対象となる。一人250万円を超える支出も。

問 国保制度の県一本化で2年経過したが。

答 今の所安定して運営しているが、先の見通せない部分が多い。今後、新型コロナウイルスや豪雨災害等で所得の大幅な減少が見込まれ、影響を危惧している。

問 「特定検診委託料」が当初の予算より減っているか？

答 検診は受けるが、その後のアフターケア（検診指導・診療・治療）を受けない方が多いため。受診の徹底を図りたい。



一般質問

ここが知りたい

村政を問う

一般質問
9月
定例議会豪雨災害の被害状況を
議員全員で視察(8月4日)

一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をたし
ていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

7議員が一般質問

8P 加藤 忠己 議員

○豪雨災害被災者への支援、援助は？

9P 佐藤 雅之 議員

○地域住民を巻き込んで避難体制の検証を！

10P 長南 正一 議員

○どう備える？豪雨災害

11P 佐藤 勝 議員

○過去の災害教訓を活かせ

12P 早坂 民奈 議員

○自主防災組織と避難所運営の今後の課題
○肘折に行こう村民応援事業の新たな継続を

13P 八鍬 信一 議員

○越流堤防の調査と対策は？
○災害調査にドローンの活用を！

14P 海藤 邦夫 議員

○今回も内水発生、ポンプ場設置の考え方は？
○最上川増水、清水・合海地区の堤防心配、今後の洪水対策は？
○洪水による農業被害、支援の考えは？



加藤 忠己 議員

豪雨災害被災者への支援・援助は 村長 被災者に寄り添った支援・ 要望活動を行う

問 全国的に急激な気象の変化に伴う洪水・土砂崩れなどの自然災害がどこで起きているのか。村でも、平成30年8月に続き今年7月、豪雨による甚大な被害が発生した。これにより多くの住民が被災し、避難した。被災住民には国や県から支援、援助が行われるが、村独自の援助等はどうか。現在までの支援・援助、今後の対応についての考えは。あわせて、平成30年に白須賀地区で発

生した崖崩れの対応について、国や県に急傾斜地の採択要件の緩和措置、又その対策工事、助成制度の新たな創設についても要望を行うと答弁している。現状は、何ら対策もなされていない。議会としても要望や陳情を行っている。村としてこれからの対応についての考えは。

答 今回の災害は災害救助法が適用され、床上浸水された方々に様々な支援を行っているようになった。被災さ

れた方々の要望を受け、当面の生活必需品の支給と、住宅の応急修理に係る支援は、床上浸水の被害が半壊との判定を受け、上限595千円の支援を行う。災害ゴミは原則村指定の集積場まで被災者が運搬するところ、お盆間近ということで、各家庭から村が運搬を手助けした。さらに、後片付けに多くの水道が使用されたことから、7月・8月分水道使用料の超過料金を減免・並びに村税の減免を今議会に提案した。トマトハウスの浸水による被害も発生し、今後農業共済組合への加入状況を確認しながらの支援策及び、ハウス移転についても検討する。水害の様子も報道されたこともあり、多くの見舞金をお寄せいただいた。こうした浄財を原資として、半壊被害にあわれた方々に見舞金としてお渡しし、更にできる限り寄り添いながら復旧の支援をしていく。



白須賀

所に避難した人を避難指示が解除される前に帰宅することを許したりするなど、改善を要する情報を様々な耳にした。誰がどのような権限を持ち役割分担を果たすのか。役場だけの検証ではなく、住民を巻き込んだ検証が必要ではないか。

答2 避難所の鍵については合鍵を作製し、地元、消防団、役場職員複数で管理したい。検証については議員の方でも行っていたきたい。



佐藤 雅之 議員

地域住民を巻き込んで避難体制の検証を 村長 村災害対策本部で検証し、 必要に応じ各団体とも検証

問1 7月末の豪雨災害は本村にも甚大な被害をもたらした。今回、災害発生時の避難情報の出し方、避難所の開設や運営、自主防災組織をはじめとした各種団体との連携に村として大きな課題を残したと思う。

課題や教訓を引き出し、次の災害に備えるために各課横断で、消防団や自主防災組織、婦人会、議員などもメンバーに加えた「防災・避難検証チーム」（仮称）

を作り地域ごとに住民と懇談をしてはどうか。

答1 大規模災害時、村は、避難された方々のニーズの聞き取りが十分にはできない状況がある。飲食の提供もままならない。有事の際は、地域の自主防災組織が主体で活動することが有効と考える。村として、次の災害発生に備え、住民に対して「災害対策マニュアル」を作成した。「もしもの災害にしっかりと備えて避難」

が合言葉。「防災・避難検証チーム」の立ち上げのことだが、去る8月7日に消防団との間で事後検証を行った。この中では消防団の情報伝達の強化と団員の安全管理の物品調達課題となった。この、物品購入については補正予算に盛り込んだ。現在、役場職員全員を対象に災害対策への課題を掘り起こしている。検証については村災害対策本部の中で行い、検証結果はできるだけ公表したい。この検証結果の公表でも、まだまだ掘り下げるべき問題が多い場合は、関係団体と順次検証をおこないたい。

問2 役場や地区、消防団、民生委員等の情報連携がうまく機能していないことが問題。避難所開設情報も錯綜し、避難所の鍵の管理にも課題を残した。また、避難時の問い合わせに「会議中」を理由に村が的確な指示を出せなかったり、避難



避難所を訪問する荒川先生



長南 正一 議員

どう備える豪雨災害

村長 根気強く要望活動を展開

問 7月28日から29日にかけての豪雨災害は記録的な雨量となり県内各地に甚大な被害をもたらした。本村も銅山川流域の道路決壊・土砂崩れ・床上浸水、橋脚の陥没等、更に最上川の氾濫による家屋の浸水、農地・用水路・ハウス、まさに今まで経験したことのない大災害であった。災害発生後、多くの方々から視察調査をして頂いたが、今後は全面復旧に向け、村民一丸となって頑張っていかなければならない。今回の豪

雨災害により、課題も浮き彫りになった。特に、肘折小松測の川幅狭小による浸水被害は慢性化している。早急に流下断面の確保、すなわ、余水吐（洪水吐）のトンネル対策が必要である。誰もがこの対策の必要性は感じており、この機を逃さずトンネル工事の実現に向け、総力を挙げて取り組んで頂きたい。具体的な取り組みについて強い村長の思いを伺いたい。

答 7月27日から28日の大雨は肘折観測所において最大183.6ミリ銅山川も最高水位を更新し2.67mを観測した。このため下流域において小松測橋や村道が冠水し、隣接する作業場、いでゆ館、下水処理場などが床上浸水した。平成25年7月にも浸水被害が発生したが、床上浸水までは至らなかった。これまでも河川の体積土砂の除去など対応してきたが、根本的な解消にはなっていない。平成10年に建設省直轄事業として苦水川と銅山川の流路工整備の計画はあったが、景勝地の景観を損ねるとの意見があり立ち消えとなった。道路や河川等の公共事業では、一旦事業中止となると再開は大変難しい。今回の浸水被害を受け、一層洪水吐の必要性を感じたところである。今回の水害では、国土交通副大臣や地元選出の国会議員、国土交通

省の幹部職員など多くの方々が被害状況調査をするため来村した。その都度肘折地区の状況説明もしてき

た。今後も肘折地区の浸水被害について、関係機関に要望活動を展開していく。



いでゆ館



佐藤 勝 議員

過去の災害教訓を活かせ

村長 あらゆる面から十分に検討

問1 当村は地形的に常に災害の危機に直面している。今回の災害も含めて過去に遡れば被災するのは同じ地区、同じ型の被災である。被災時には国、県の担当者が視察に来るが、その後の救済や支援についての経過は村民には分からない。過去の災害の教訓を活かし、公共施設や農業施設の移転、災害時の交通の確保など防災に対して、新たな施策を講じる時期ではないか。4点について伺う。

答 備品の管理や確認は防災組織で自主的に行うことが大切。代表が毎年変わることで、意思伝達がうまくいかない地区もある。点検した際、エンジンのからない物や、すぐに点検出来ない物があり、今後管理や防災認識を指導していく。

① 各集落の防災備品の管理及び地区民の防災の認識はどうか。備品を与えるだけでは防災とは言えないのではないか。

② 災害時の迂回路や情報提供の不備が問題視されている。情報が無いと住民の不安や行動に影響する。この繰り返しでは優れた防災対策とは言えない。又、旧南山小学校付近の災害復旧は。

③ 大規模な基盤整備が行われている中、トマトハウスの集団移転の話がある。補助事業でもあり、行政の十分な検討と強力な指導が必要。常に泣くのが農家であってはならない。

④ 役場庁舎や診療所を移転する話がある。清水地区が被災した場合役場の機能は不能となる。先人たちの知恵や過去の災害の教訓を活かし、しがらみに拘わらず思い切った発想の元に移転先を考えるべきではないか。



答 各公共施設は浸水想定区域の中にあり、総合的な移転を考えている。現庁舎は県の防災システムの専用電話回線もあり、2階まで浸水しない限り、活用できる。想定を超える災害時の対策として、大蔵小学校に一時的な対策本部機能の移転も考えている。村民の生活を守る拠点である事からあらゆる面から十分に検討していく。



早坂 民奈 議員

自主防災組織と避難所運営の 今後の課題

村長 地区内の防災知識の啓発 と訓練の実施

問 大雨による越水で多く

を望む。

答 避難所の設置にあたり、必要な計画、事前準備をし、災害時の人員配置を考えながら行っている。食料、毛布等の備品の他に、心のケア、健康チェックをするため保健師等向かわせるなど対応している。そのためにも指定された避難所へ避難していただくことが重要と考えている。自主防災組織については地区内の安全点検や防災知識の啓発、訓

練の実施を村民に呼び掛けていく。女性組織も既存の団体をお願いし対応していく。

肘折に行こう村民応援事業の 新たな実施を

村長 秋冬分の新たなキャンペーンを行う

問 期間限定1回限りの「村民限定の宿泊補助事業」を利用した方には喜ばれた

が、数回利用したい方には残念の声が聞かれた。利用率も半分に満たしていない。



肘折朝市

そこで、各旅館ごとに限定し何度でも利用できる新たな補助を考えてはどうか。又、プレミアム商品券の第2弾発行も良いのでは、商品券だと旅館以外でも利用でき、活性化に繋がるのではないか。

答 期間中の利用者は219名、利用率44%で、限定をなくせば利用者数は増えていたかもしれない。新たに「頑張る肘折！応援キャンペーン」秋冬分を予算に計上した。対象者を村民限定にするか、最上郡内まで広げるか今後検討する。県のキャンペーンも実施されており、これらを利用することにより、複数回利用できる。又、プレミアム商品券は限られた方の購入が多いので考えていない。そこで、1世帯に付き2万円の商品券を全世帯に配布する予定である。



八鉏 信一 議員

越流堤防の調査と対策

村長 堤防高上げを強く要望

問1 7月29日早朝、最上川氾濫し堤防越流から、広範囲に農地と道路の冠水・建物の浸水被害が発生した。堤防があと1メートルも高ければ被害は免れたかもしれない。既存の堤防は平成12年に「計画高水位」の高さで築堤され、排水樋門のある「余裕高」までの工事は予定されていない。近年、異常気象による災害が頻発しており、今後の災害防止として、早急な調査と対策を要望すべき、と考えるが村の見解はどうか。

答1 国土交通省では堤防築堤後も天端や裏法面の保護補強をしてきた。そのため最上川からの越流はあったが、最悪の決壊までには至らなかった。現在の堤防は「計画高水位」の高さで築堤されている。暫定堤防で、将来的には排水樋門の高さまで盛土することとなっている。堤防の高上げについては、国土交通省をはじめとする関係機関に要望していく。最上川の治水対策としては、中流域全体のバランスを考慮

した整備が、必要であることをご理解いただきたい。
問2 他に被害を受けた、烏川・作の巻の自然堤防（無堤防）、稲沢の堤防越流、サス崎の堆積土砂や河川木の撤去、ポンプ車の適正配置についてはどうか。
答2 無堤防地区の新規築堤、堆積土砂の撤去については最上川中流既成同盟会でしっかりと要望する。ポンプ車については適正配置計画を作成する。



7/29 8:20

問 近年村内において大雨による洪水・土砂崩れ被害が多発しており、役場担当課においては村内被害調査に奔走している。大変な労力と時間を費やし、また2次災害の危険を伴う重労働でもある。
これらを軽減解消するに「小型無人機ドローン」があり、現在行政でも配備し活用している。自治体もあると聞く。写真や動画撮影に加え被害地図・図面作成・面積積算・など、労力・時間の軽減と危険防止に最適と考える。
イベントや広報活動等も含め、活用するため導入を検討してはどうか。
答 災害時の被害調査については大勢の職員で対応しており、2次災害の危険

災害調査にドローン活用 村長 今後検討すべきと考える

や大変な労力を要している。日の出から日没まで概ね2・3名グループの5グループで調査に当たっている。ドローンについて調べると技術的な課題が多いため民間の運航会社に委託を考えている。



7/29 13:07

議会から

令和2年も、収穫の秋のなか紅葉が美しく感じられる頃となりましたが、今年は実に様々なことがあった年でした。年を越えてから当りに降るはずの降雪が少なく、記録的な少雪の冬となりました。その間どこか遠くの出来事かと思われた新型コロナウイルスが村にも押し寄せる事態となり、関係する方々に多大の苦労がのしかかる状況となってしまいました。『生活が一変する混乱の春』となってしまいました。そして、新しい生活様式を取り入れ落ち着いた生活に慣れようとした矢先の、7月末の豪雨は村に大きな被害を残しました。記録的な暑さが続くなか懸命の復旧を行い、ようやく普段の暮らしを取り戻すことが出来ましたが、『オリンピック延期』から始まって、期待していた、楽しみにしていた催しはほとんど中止になるなど、まさに「大変な一年・残念な一年」との思いでおります。

さて、例年行っている「議会報告会」も、今般のコロナ禍の社会情勢では開催困難と判断し、今年は開催を見送ることとしました。住民の皆さんの生の声を聞けないことは大変残念ですが、来年こそは必ずとの思いでおります。どうぞ御理解いただきたいと思います。

最後に、我々議会も行動が大幅に制限され、思うような活動が出来ない状況の中ではありますが、新型コロナウイルス対策や災害復旧対策等の喫緊の課題解決を中心とした諸問題に真摯に取り組んでまいりますので、今後とも御理解と御協力を宜しく御願いたします。

大蔵村議会
議長 鈴木 君 徳



一 般 質 問



質 問

問



海藤 邦夫 議員

今回も内水が発生。ポンプ場の設置の考え方を
村長 排水機場の設置を要望していく

問 近年相次いで内水が発生し、浸水したトマトハウス等も長時間の内水で青枯れが出ている。内水は烏川の取り入れ口から最上川の増水により入ってきたとみられ、入り口を止め水が入らないようにできないか。



清水の八幡様付近

を検討する。ポンプ場の設置は各関係機関に排水機場の設置を要望してきたが引き続き展開していく。

問 堤防の越水、内水による農業被害に対し、村の支援の考えは。

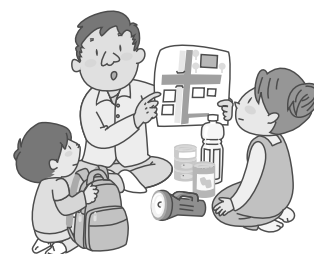
答 浸水被害については、農業共済組合において、順次確認を進めている。農業共済制度は、自然災害等による収穫量の減少等の損失を補てんし、農業者の経営安定を図るための公的セーフティネットである。この機に、加入率の低い「収入保険」の加入も含め再検討を薦める。国の災害復旧事業申請は農業用水路の復旧1件、国補助事業で取り

洪水による農業被害が発生した農業支援は考えているのか
村長 国や県へのより一層の要望と早期支援を行う。

問 今回の最上川の氾濫は清水合海地区がどうか免れたが、今後これ以上増水した場合の対策をどう考えているか。

答 白須賀堤防の嵩上げや下流の畑地区における河川整備など流域全体を考慮して整備を進めることが重要である。又、日頃から地域

最上川の増水により清水・合海地区の堤防が心配される。今後の洪水に対する考え方は
村長 防災意識を持つて啓蒙を図る。



住民の方々に洪水に対する防災意識を持つていただき、啓蒙を図るとともに、若い世代に伝えることも大切と考えている。

組むハウス移転、乾燥機等の再取得を3件予定している。その他、農地、農業用施設の災害は合計80ヶ所を確認している。復旧については、受益者の意向を踏まえ、冠水による病害虫防止に向けた農業購入費、農機具等の修理費も含め県の補助事業との調整を図りながら、より一層の要望活動と早期支援を行う。

あれから、どうなった?

検証・提言

No.5

コロナ禍に水害も重なり、村民にとって大変厳しい日々が続いています。こうした中で、住民の経済負担をどう軽減し、医療や介護を守っていくのかが問われています。今回は、医療・介護の問題について検証します

①子ども医療費

子育て支援の一環として、高校卒業までの医療費を村として無料にしては?

令和2年度から高校卒業まで無料。



②村独自の介護(者)支援

「紙オムツ支給事業」、「介護者激励金事業」の対象要件を緩和しては?

村は、「できない行為」を「できる行為」に改善する「自立支援型ケアプラン」を目指す。要件緩和は検討しない。「自立」の名の下に「放置」、「孤立」となっていないか更なる検証が必要です。



③国民健康保険税

高い国民健康保険税の引き下げを

保険者が山形県に一元化された平成30年度に村では「資産割」を廃止しました。しかし、「所得割」の税率等は、県内でも高水準です。国への更なる支援が求められます。



④介護保険料

介護保険事業の見通しは?

介護給付費増の中で、保険料を上げざるをえない。令和3年度以降の第8期も保険料の引き上げが懸念されます。介護予防の強化と合わせ、国による補助の抜本的引上げが求められます。



議会広報調査 特別委員会

委員長	早坂民奈
副委員長	佐藤雅之
委員	矢口智
委員	斉藤光雄

秋の澄み切った青空
を見上げると
赤とんぼが飛んでいる。
そういえば、童謡の「夕焼け小焼けの赤とんぼ、おわれて、見たのはいつの日か」の「おわれて」を「追われて」と、ずーと勘違いしていた。「背負われて」が正解だそう。背負っていたのは母か又は「おしん」のような子守だろうか。
母がしたように我が子をおんぶし、今は孫をおんぶしている。眠くなりぐずりだしても、おんぶすると安心し、すぐに寝てくれる。不思議なことにママよりババの背中が好きなので少し嬉しい。背中から孫の体温が伝わり、ひと時の幸福を味わっている。コロナの影響で、遠くの孫たちとは会えないでいるが、美味しい秋の味覚を送りしばらく我慢してもらおう。今日もまた、早く収束するのを願い、老体にムチ打ち、重たい孫をおんぶする。

(早坂 民奈)

後書き

